

大阪市廃止 再び否決

市民の良識、維新野望砕く



「反対」多数の報道に喜びを爆発させる市民＝1日、大阪市

住民投票

大阪市を廃止することの是非を問う住民投票が1日行われ、開票の結果、反対が多数となり、大阪市の存続が決まり、制度案は廃案となりました。130年の歴史をもつ大阪府をとりしめ、権限も財源も「都(府)」に引き上げ、「1人の指揮官(知事)」のやりたい放題の体制をつくらざる大阪維新の会(代表・松井一郎大阪市長)の野望を市民の良識が打ち砕きました。投票率は62.35%(前回66.83%)。

大阪市を廃止分割する「大阪都」構想の制度案否決は、2015年5月の住民投票に続いて2度目。維新は前回反対だった公明党を抱き込み、2度目の住民投票に持ち込みましたが、制度案は特別区の数も五つから四つに変えたく

市をよくする会」と「明るいの民主大阪府政をつくる会」は、特別区にすれば毎年約200億円の財源不足に毎年、特別区設置コストが15年間で1300億円もかかることなどを挙げ、住民サービスの下は避けられないと指摘。暮らしを守るまでにすることができると訴えた。

一方、大阪維新の会は「1日も『都構想で住民サービス低下』はすべてアザ」とのヒラを配布。松井一郎代表(大阪市長)らがマスクを握った街頭説明会では、大阪を裏返されたのは共産党(維新府議)などのアザ攻撃までして大阪市解体に異様な執念をみせましたが、市民の良識の前には通用しませんでした。

あすの大阪つくる希望に

二つの会と共産党が会見

「やった」「あすの希望に」となると、午後10時44分に「反対多数確実」の速報が流れる。拍手が湧き起り抱き合ったり喜びあい、泣き崩れる姿もありました。「明るい民主大阪府政をつくる会」の荒田事務局長と「大阪市をよきとする会」の福井朗事務局長、日本共産党の柳田昭委員長、山中智子市議団長は、大阪朝明後、大阪市内で記者会見しました。

荒田氏は「大阪市を愛するたさんの人たちの思いが今日ひとつの結果を生んだ」として、「あすの大阪をつくらせていく大きな希望につながっていく」と語りました。



会見する(前列左から)福井、荒田、山中、柳の各氏＝1日、大阪府北区